

## こどものけいれん



3歳くらいまでのお子さんの脳は未熟であり、さまざまな原因でけいれんを起こします。代表的なけいれん性疾患について解説します。

### ① 熱性けいれん

通常、38℃以上の発熱の際におこるけいれん発作で、1歳前から3歳くらいまでの年齢で起こし、小学校入学頃には治まることが多いです。熱性けいれんを起こしたお子さんのうち1/3は2回以上繰り返します。熱性けいれんをすでに何度も繰り返したり、10～15分以上続く長いけいれんを起こしたことがあるお子さんには、発熱に気付いた時点でけいれん予防目的の座薬を使用する方法があります。

### ② 憤怒けいれん（泣き入りひきつけ）

生後6か月から2～3歳のお子さんが、激しく泣きだし、息をはいた状態のまま、意識を失ってぐったりしたり、けいれんを起こすことがあります。成長とともに消失するため、特別な治療を必要としないことがほとんどです。

### ③ 胃腸炎関連けいれん

1～2歳くらいのお子さんが、嘔吐や下痢を引き起こす胃腸炎（ロタウイルスやノロウイルスなど）にかかった時に、短いけいれんを1日に数回反復します。胃腸炎関連けいれんが疑われる場合、抗けいれん薬を1回だけ飲むことで2回目以降の予防が可能です。

### ④ てんかん

バタンと倒れて全身をがくがくさせるけいれん、ぼんやりして名前を呼んでも返事をしない、体の一部が瞬間的にぴくんとする、などの発作を繰り返します。てんかんを正しく診断するためには検査（脳波やMRIなど）だけでなく、問診（どのような発作が起こったか聞き取ります）がとても重要です。あわてず症状を観察し、何度も繰り返す場合は動画で撮影していただくと役立ちます。